

科目名	がん看護学演習V			分野・必選別・単位数	専門科目 (がん看護学)	選択	2単位
担当教員	◎教授 南川雅子					科目ナンバー	T2C136
課程	博士前期	配当年次	1年または2年	配当学期	通年	授業方法	演習
授業の概要	対象となる患者を包括的にとらえ、専門性の高い緩和ケアを提供するために、緩和医療・ケアに関する実践的知識を深める。						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体症状を緩和するための実践的な医療・ケアの適用可能性について考察する。 2. 患者のスピリチュアルな苦痛を緩和するための実践的な方法の適用可能性について考察する。 3. 患者の心理・社会的な苦痛を緩和するための実践的な方法の適用可能性について考察する。 4. 緩和ケアにおける倫理的葛藤について、臨床倫理四分割法を用いて分析することができる。 						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	南川 雅子	教授	緩和医療概論 緩和医療・看護、患者の包括的評価の実際について説明できる。			
	2	南川 雅子	教授	心理社会的ケア 患者、家族に生じる心理的反応に関する包括的アセスメントについて説明できる。			
	3	南川 雅子	教授	精神的ケア、スピリチュアルケア がん患者が合併する精神症状とその治療、およびピアサポートについて説明できる。			
	4	南川 雅子	教授	身体症状への対処①:がん性疼痛管理 オピオイドローテーション、投与ルート変更方法などの計算、患者の個別性を考慮した投与方法、合併症があるときの除痛方法について説明できる。			
	5	南川 雅子	教授	身体症状への対処②:消化器症状 治療に伴ってみられる消化器症状の治療について説明できる。			
	6	南川 雅子	教授	身体症状への対処③:呼吸困難と終末期の対応 終末期にみられる諸症状について、日本緩和医療学会のガイドラインに則した標準的治療と日常的な援助について説明できる。			
	7	南川 雅子	教授	在宅緩和ケア 在宅における緩和ケアの実際について説明できる。			
	8	南川 雅子	教授	医療倫理 生命倫理における終末期医療関連の問題について、臨床倫理四分割法を用いて分析し、意思決定する方法について説明できる。			
	9	南川 雅子	教授	海外の緩和医療の現状 海外の緩和医療の現状に触れ、日本の現状を客観的に考察する。			
	10	南川 雅子	教授	緩和ケア演習① 1～9回目までの講義で学んだ内容に関して、これまでに関わった事例への適用可能性について検討する。			
	11	南川 雅子	教授	緩和ケア演習② 1～9回目までの講義で学んだ内容に関して、これまでに関わった事例への適用可能性について検討する。			
	12	南川 雅子	教授	緩和ケア演習③ 1～9回目までの講義で学んだ内容に関して、これまでに関わった事例への適用可能性について検討する。			
	13	南川 雅子	教授	緩和ケア演習④ 1～9回目までの講義で学んだ内容に関して、これまでに関わった事例への適用可能性について検討する。			
	14	南川 雅子	教授	緩和ケア演習⑤ 1～9回目までの講義で学んだ内容に関して、これまでに関わった事例への適用可能性について検討する。			
	15	南川 雅子	教授	緩和ケア演習⑥ 1～9回目までの講義で学んだ内容に関して、これまでに関わった事例への適用可能性について検討する。			
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	随時紹介する。						
参考書	随時紹介する。						
成績評価の方法および基準	事例検討のプレゼンテーションと質疑応答40%、レポート60%により評価する。						
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2およびDP3が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						